

Ⅱ. 2023年度活動報告

1 意識改革

(1) 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー

令和5年5月16日(火)に「山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー ～『男性の育休』をめぐるあれこれ～」を開催した。

毎年6月23日から29日までの一週間は「男女共同参画週間」とされているが、本学では、この「男女共同参画週間」の趣旨に賛同し、「山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー」を毎年開催している。

今年のセミナーは、2022年に「育児・介護休業法」が改正されたことで、男性の育児休業・育児休暇取得が注目されていることもあり『男性の育休』をめぐるあれこれをテーマとした有識者による講演会を開催することとした。

講演会講師には、生涯発達心理学、子育て学を専門とする東北大学大学院教育学研究科教授の神谷哲司氏をお招きし、対象者を本学教職員のみならず、学生や一般の方を含め、多くの方に参加いただけるものとした。

約100人が参加した講演会は、神谷先生の実体験やユーモアを交えた、わかりやすく新たな気づきのある内容で、最後に行われた質疑応答に多くの質問が寄せられ、時間の関係上、全ての質問には答えきれない程となった。

受講者からは「科学的根拠を示したお話で、歴史を踏まえたいうで、さらにネットの声もはさみながら面白く、非常に納得感のある講演だった」「社会の現状や今後の課題等わかりやすく先生に説明いただき、有意義な場となりました」などの声が寄せられ、講演会は大変有意義なものとなった。



講演会の様子

山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー
「男性の育休」をめぐるあれこれを

講演会日時
令和5年5月16日(火)
(14:40~16:10)

開催方法 オンライン開催

参加費 無料

講師紹介
神谷 哲司氏
東北大学大学院教育学研究科教授
生涯発達心理学、子育て学
を専門とし、育児休業、介護休業
に関する研究、実践、普及活動に
従事。著書『育児休業の活用』
など。現在、『男性の育休』に関する
研究を進めている。

申込方法
下記URLから申込フォームをダウンロードし、申込フォームに記入し、
▶ <https://forms.office.com/r/B72IU2CwR>

申込締切 令和5年5月8日(月) 受付終了 山形大学ダイバーシティ推進室 tel.023-628-4937

山形大学
主催 東京大学法人山形大学
共催 大学コンソーシアム山形が「ダイバーシティ推進ネットワーク」を主催

チラシ

(2) 令和5年度 山形大学男女共同参画及びダイバーシティフェスタ

令和5年6月23日（金）～6月29日（木）に「令和5年度 山形大学男女共同参画及びダイバーシティフェスタ ～無くそう思い込み、守ろう個性～」を開催した。

毎年6月23日から29日までの一週間は「男女共同参画週間」とされている。本学では、この「男女共同参画週間」の趣旨に賛同し、山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー及びフェスタを毎年開催していたが、フェスタについては、新型コロナの影響により中止となっていたため、今回は4年ぶりの開催となった。

今年のフェスタには、LGBTQに関する取り組み等のポスターを始め「山形大学における多様な性に関するガイドライン」「カラフルCafé」「アンコンシャス・バイアス」に関するパネルを展示。さらには、本学出身で、日本では3人目の女性理学博士、現北海道大学最初の女子学生であり、理化学研究所でも初の女性研究員で主任研究員であった「加藤セチ博士」に関するパネルも展示した。

展示パネル等への関心度については人それぞれのようにだったが、フェスタ開始前日の会場準備終了直後には、さっそく学生と思われる数名の方が、ポスターやパネルを熱心にご覧になっていた。

パネル展をご覧になった方からのアンケートによれば、興味を持ったパネルについては「アンコンシャス・バイアスに関するパネル」と答えた方が最も多く「多様な性については理解しているつもりでも、知らず知らずのうちに男性、女性と意識していることが多く、無意識なだけにこの意識を変えていくのは難しいと感じました」「普段当たり前だと思っていた事を考え直す良いきっかけになりました」等の感想もいただき、アンコンシャス・バイアスについては、引続き周知していきたい。

しかし、その反面「多様な性に関するガイドラインに関するパネル」に興味を持ったと答えた方が非常に少なく、当該ガイドラインの周知方法等、更に検討が必要であると感じた。

また、展示会場が学生会館ということもあってか、来場者の多くは学生のようなので、もっと教職員にも来場いただくためにはどうしたらいいのかの検討についても併せて必要であると感じた。

なお、アンケートの中に「多様な性について少しでも興味がある人は目を向けるかもしれないが、問題視すらしていない人は、展示物には目をとめない気がする」というご意見があり、このことは、今後のフェスタ開催にあたり、最も大きな課題であると感じた。



パネル展の様子



チラシ

(3) 山形大学レイシャル・ハラスメント防止セミナー

令和5年12月11日（月）に、本学教職員及び学生を対象とした「山形大学レイシャル・ハラスメント防止セミナー ～留学生・外国人研究者への対応において気を付けるべきこと～」を開催した。

山形大学では、年齢や性別、人種や国籍等を問わず活躍できる大学づくりを目指しているが、今後、更なる国際化等に向けてダイバーシティを一層推進するためには、レイシャル・ハラスメント防止にかかる意識醸成を図ることが更に必要であると思われる。

今回のセミナーは「留学生・外国人研究者への対応において気を付けるべきこと」をテーマとした有識者によるもので「留学生と外国人研究者と多様性」「コミュニケーションの齟齬によるトラブル」「留学生とトラブルになった時の対応」について学ぶことを目的としたもの。

セミナーには、オンライン参加へ多くの申込みがあった他、セミナー当日は都合により参加できない方からも、後日の動画配信についてお問い合わせいただくなど、関心の高さがうかがえた。

セミナー講師には、上智大学、東京大学、立

教大学、早稲田大学にて、留学生および外国人研究者へのカウンセリング、メンタルヘルス支援、ハラスメント相談対応に従事され、令和4年4月より広島大学ハラスメント相談室の准教授として勤務されている山内浩美氏をお招きした。

約80人が参加したセミナーは、山内先生の実体験を交えた、わかりやすく新たな気づきのある内容であった。

受講者からは、「留学生や外国人研究者と交流を重ね、様々な価値観、考え方や意見に対応できる強い大学組織になれるような気がしました」「留学生に対して積極的に対応した方が良かったかどうか迷っていたので、とても参考になりました。今後、積極的に行動できるようにします」「これまでレイシャル・ハラスメントの言葉すら知らなかったが、それが起きてしまう要因そして起こさない方法について学ぶことができた」「トラブルの原因は、ミスコミュニケーションが大きいこと、ハイコンテキスト・ローコンテキストなど大変勉強になることが多かった」など多くの声が寄せられ、講演会は大変有意義なものとなった。

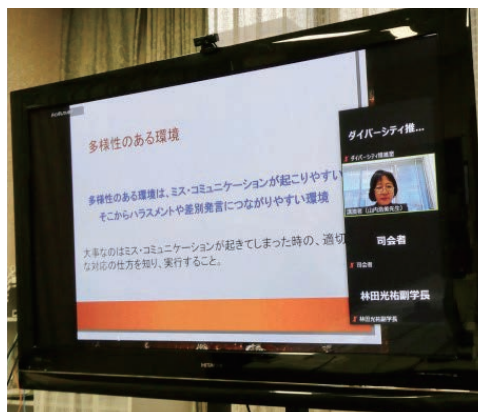
山形大学レイシャル・ハラスメント防止セミナー
 留学生・外国人研究者への
 対応において気を付けるべきこと

◆開催日時：令和5年12月11日（月）15:10～16:40
 ◆開催形式：オンライン（Zoomウェビナー）
 ◆対象者：本学教職員及び学生

◆講師紹介◆
 山内浩美氏
 広島大学ハラスメント相談室准教授
 相談室長・公認心理師

申し込み：下記URLまたはQRコードから申し込みください。
<https://forms.office.com/r/9f8m0mVW96>
 ※お申し込みいただいた方には、当日まで、参加無料メールが送られます。

申込締切：令和5年12月4日（日）15時（17時） 山形大学ダイバーシティ推進室 tel.023-428-4537



セミナーの様子

チラシ

(4) 学長・学部長と女性研究者との懇談会

山形大学では、女性研究者にとって、働きやすく研究しやすい環境づくりを行うため、学長や学部長と女性研究者が意見交換を行う「学長・学部長と女性研究者との懇談会」を開催した。令和5年度の懇談会実施状況は次のとおりである。

鶴岡 キャンパス	日 時	9月25日 (月) 15:00~16:00	参加数	8人 (うち、女性研究者4人)
	テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者の立場から、具体的に取り組んでほしいと思う施策や、新設または改善してほしい支援制度 ・女性の大学院進学者を増やすための課題、要望・アイデア 		
	効果・ 反省事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する話題だけでなく、国際交流や地域創生などについても問題提起が行われ、幅広くダイバーシティの推進について話し合いが行われた。 ・テーマである女性の大学院進学者や女性教員の増加という課題についても、各研究者視点での問題点や改善点が多く提案、議論され、有意義な会となった。 		
米沢 キャンパス	日 時	12月14日 (木) 15:30~16:30	参加数	10人 (うち、女性研究者5人)
	テーマ	特になし		
	効果・ 反省事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会で発言のあった意見・要望は、参加者自身の経験や女性研究者からの目線に基づいたもので、学長、担当副学長及び学部長と直接意見交換できる大変貴重な機会であった。 		
小白川 キャンパス	日 時	3月8日 (金) 13:30~14:30	参加数	14人 (うち、女性研究者7人)
	テーマ	～本学の課題とその解決について～		
	効果・ 反省事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者と学長等が直接対話できる貴重な機会となった。 ・様々な学部・院から参加者が集まった。 ・日常的な業務に関するものから大学の制度に関するものまで幅広い意見が出たため、非常に有意義であったと思われる。 ・気軽に意見交換を行えたため、意見が活発であった。 ・活発に意見交換が行われ、時間が足りなかった。 		



懇談会の様子（鶴岡キャンパス）



懇談会の様子（米沢キャンパス）



懇談会の様子（小白川キャンパス）

(5) 新任職員ミーティング～新任者と語るワークライフバランス～

1. 日時 【事務職員】令和5年7月25日（火） 14:30～15:30
【教員】 同日 16:00～17:00
2. 場所 法人本部第1会議室（対面）及びオンライン（Zoom）
3. 参加者 【事務職員】15名
【教員】3名

令和4年度中途採用及び令和5年4月1日以降採用の教職員を対象に、本学に新しく採用となった職員が、ワークライフバランスを保持し、生活を安定させるための情報交換を目的としたミーティングを開催した。

事務職員・教員それぞれが、最近不安に思うことや悩んでいることを互いに語り合えるよう二部構成とし、また、対面会場から離れたキャンパスに所属する参加者を考慮し、小白川キャンパスの教職員は会議室での対面で、その他のキャンパスの教職員はオンラインでの参加となった。

前半の事務職員ミーティングでは、ダイバーシティ推進室の柿崎先生進行により、ダイバーシティ推進室長の大森副学長から挨拶の後、参加者それぞれから自己紹介があった。皆さんが緊張して自己紹介する中、ある参加者からの自己紹介で「趣味で筋トレをしている」との発言があり、そこから空気が和み、和やかな雰囲気ではじめ進んだ。

ミーティングでは、普段なかなか聞くことができない同期の新任職員が抱えている悩みを共有するとともに、出席者の総務部長、労務課長及び同担当係長の先輩職員からも、ワークライフバランスについて様々なアドバイスがあった。

後半の教員ミーティングでは、ダイバーシ

ティ推進室副室長の河野教授も出席し、参加者本人が妊娠・出産・子育てする上での学生教育に関する悩みや研究機器購入等に関する悩み等に対し、室長および副室長から、これまでの教員生活に基づく現場の経験を踏まえた貴重なお話を伺うことができた。

事後アンケートでは、「先輩職員の皆様のノウハウを教えていただけて勉強になった」「休暇制度やダイバーシティについてのお話を聞くことができて良かった」「実際に育休産休などを取得するのはまだ先の話だが、自分がいざ取得したいと思ったときに、どこを見たらよいかも知ることができた」「細々としたことでも、耳を傾けていただける方々がいらっしやると知ることができた」「気になっていた小さな疑問への回答や、研究費について他の先生方がどのように考えているかなどを聞くことができた」等、有意義な会であったとの意見があった反面、「テレワークのことにに関して一切知識がなかったので、今回別キャンパスの人にとって身近なものであるということに驚いた」「ダイバーシティ・インクルージョンとして、男女共同参画やLGBTQへの支援体制はとても素晴らしいと思う一方で、障害者雇用や理解推進については、大きく掲げられていないことが少し気になった」との声もあった。



ミーティングの様子（事務職員）



ミーティングの様子（教員）

(6) 女性研究者の集い

男女共同参画に係る第7回（令和3年度実施）アンケート結果では「職場に何でも話せる人がいない」と感じる女性教員は57.9%と、他の職種別、性別に比べ最も高く、前回調査の41.1%よりも上昇していたことをうけ、この状況の解決策を検討し、令和3年度の新たな試みとして、女性の教員が気軽に話せる場とした「女性研究者の集い」を試行した。

令和4年度についても、引き続き対面及びオンライン形式で開催し、令和5年度についても、2か月に1回の割合で、同形式で開催することとした。

【令和5年度開催実績】

- ・ 令和5年5月9日（火）16:45～17:00
- ・ 令和5年7月5日（水）16:45～17:00
- ・ 令和5年9月7日（木）16:45～17:00
- ・ 令和5年11月7日（火）16:45～17:00
- ・ 令和6年1月11日（木）16:45～17:00

女性研究者の皆さまへ

～令和5年度 第5回女性研究者の集いの場のご案内～

ダイバーシティ推進室では、女性の教員が月に1度集まって、おしゃべりしながら、ホッとできる場所を企画しました。
さまざまな分野のさまざまな年代の方々が交流し、
ゆるいつながりを築いていきませんか。

男女共同参画に係る第7回（令和3年度実施）アンケート結果では、「職場に何でも話せる人がいない」と感じる女性教員は、57.9%と他の職種別、性別に比べ、最も高く、前回調査41.1%よりも上昇していました。

開催日時 **1月11日（木）**
16時15分～17時00分

申込方法

▶ 申込フォーム

※オンライン参加の方には前日までにURLをお送りします。

ご参加お待ちしております！

ダイバーシティ推進室
TEL023-628-4937・4939（平日9時～17時00分）
e-mail:yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

チラシ

(7) 多様な性に関するガイドライン

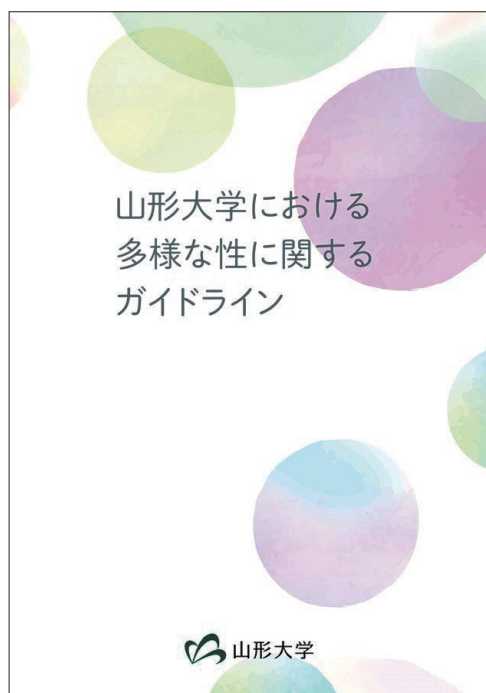
山形大学では、第2次山形大学男女共同参画基本計画（令和2年4月施行）において、男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、「個々の性別、性的指向・性自認等にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指す」ことを掲げており、様々な取組を行っている。

その取組の一つとして、令和3年2月には「多様な性に関するガイドライン」を作成し「多様な性」について、本学の姿勢、現段階での具体的な対応、これから対応する必要がある事柄などを示した。

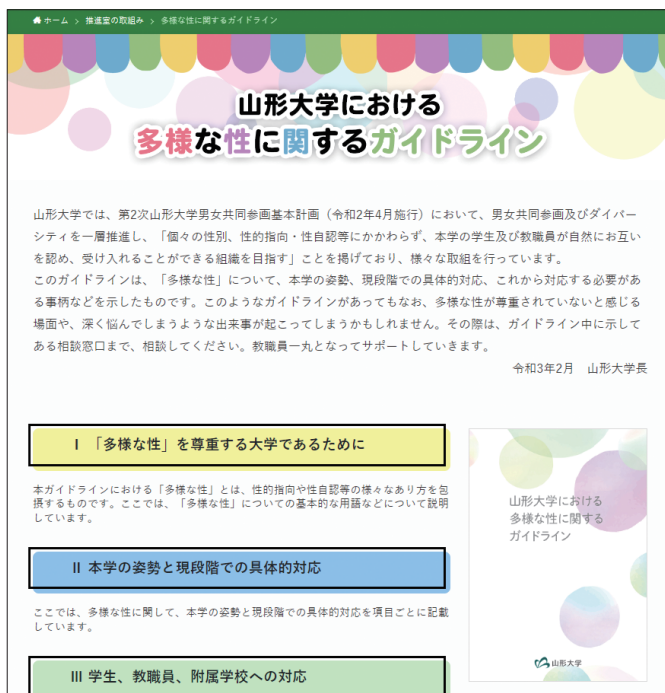
なお、令和5年度は、リニューアルしたダイバーシティ推進室のホームページ内に「多様な性に関するガイドライン」のページを新設し、パソコンやスマートフォンからも簡単に見られるようにした。

また、本学の各キャンパスには「多様な性に関する学内の相談窓口」が設置されており、多様な性が尊重されていないと感じる場面や深く悩んでしまうような出来事が起こった場合など、相談を随時受け付けている。

なお、令和5年度は、本学へ新たに入学した学生に対し、当該ガイドライン（リーフレット）を配布するとともに、概要説明を行った。



ガイドライン（パンフレット）



ホームページトップ画面

2 仕事と育児等との両立支援

(1) 各種保育利用料補助制度

1. 制度の目的

山形大学に所属する女性研究者に対し、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用料金及び大学入学試験等の業務のための一時預かりの利用料金を補助し、仕事と育児の両立を支援することを目的とする。

2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手及び医員（年俸制の者に限る。）で、小学校6年生までの子どもを養育する研究者とする。

3. 補助額

補助される額は、子ども一人につき年間二万円（源泉徴収分を含む）を限度とする。
ただし、下記4⑤の場合は、年間二万円の限度に含まれない。

4. 支援の対象となる保育

支援の対象となるのは、事業者（ファミリーサポートセンター等）による次に掲げる保育で、親族・知人によるものは除く。ただし、事業者への保育依頼が困難である場合には、ベビーシッターに保育を依頼することができるものとする。

- ① 夜間保育（延長保育を含む）
- ② 休日保育（ただし、通常保育及び延長保育を除く）
- ③ 病児・病後児保育
- ④ 学童保育
- ⑤ 大学入学試験（大学入学共通テスト・個別学力テスト・推薦入試など）の業務のために利用する一時預かり

5. 利用者状況

今年度の登録者数は26名であった。

(2) 研究支援員制度

1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務又は在学する研究者が、ワークライフバランスを保ちながら研究活動を行う環境作りの一環として、研究支援員（以下「支援員」という。）を配置し、出産、育児、介護等により十分な研究活動を行うことができない研究者を支援することを目的とする。

2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、医員（年俸制の者に限る。）及び山形大学研究員等取扱規程に掲げる研究員のうち、博士研究員並びに大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生のうち、次に掲げるいずれかの要件で研究活動に支障が生じている研究者とし、ダイバーシティ推進室長が認めた者とする。

ただし、博士研究員及び大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生が支援を必要とする場合は、博士研究員及び学生の指導を担当する教員が支援員の申請及び管理等を行うものとする。（指導を担当する教員は、本学の常勤の職員とする。）

- ① 妊娠中又は小学6年生までの子供を養育している者
- ② 市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない。）を介護している者
- ③ その他、上記①及び②に準ずる者

3. 支援する内容

- (1) 支援員に依頼できる業務は、当該研究者があらかじめ申請し、審査の上、ダイバーシティ推進室長が決定したものとする。あくまでも研究上において真に必要な補助業務に限る。
- (2) 支援員によって支援できる時間は、支援業務の内容、関連予算等を勘案し、週6時間までの範囲でダイバーシティ推進室長が決定する。（申請時間が全て認められるとは限らない。）

4. 支援する期間と経費負担

- (1) 支援員による支援期間は、1年間（4月1日から翌年3月31日）とする。ただし、当該期間中に支援対象者としての資格要件を失った場合は、直ちに支援を終了する。なお、支援対象者が資格要件を失った場合であっても、本制度の支援員として既に締結している雇用契約期間については、配置換を行うことで雇用を保障する旨を事前に支援員へ説明すること。
- (2) 支援員の雇用に要する経費は、ダイバーシティ推進室が負担するものとし、採用に当たっては、「国立大学法人山形大学短時間勤務職員就業規則」又は「国立大学法人山形大学アドミニストレーティブ・アシスタントに関する規程」に定める規則を適用する。
- (3) 支援員に係る雇用経費は、学長裁量経費から支出する。

5. 利用者状況

今年度の利用者数は20名であった。

(3) 学会等参加時の保育・介護支援制度

1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務する教職員等の仕事と育児・介護の両立を支援するため、学会等参加時の託児、ベビーシッター、介護支援施設、ホームヘルパー等の利用料金の一部を補助することを目的とする。

2. 支援の対象者

補助の対象となるのは、本学に所属する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、医員（年俸制の者に限る。）及び山形大学研究員等取扱規程に掲げる研究員のうち、博士研究員並びに大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生で国内外の学会（付随する会議を含む）等へ参加するために託児、ベビーシッター、介護支援施設、ホームヘルパー等を利用する者のうち、次に掲げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 小学校6年生以下の子どもを養育している者
- (2) 要介護認定1以上の家族を介護している者

なお、研究員については、週30時間以上研究に従事する者に限る。

3. 利用者状況

今年度の利用者数は1名であった。

(4) 女性管理職支援制度

1. 制度の目的

女性管理職の仕事と育児の両立の支援を目的とする。

2. 支援の対象者

国立大学法人山形大学管理職手当支給細則第2条第1項に規定する区分1種から7種までの女性職員で、小学6年生までの子を養育する者。

3. 支援の対象となる保育

管理職等の職務の遂行に伴い必要となった保育サービス等で、主に次に掲げるもの。

- ① 夜間保育（延長保育を含む）
- ② 休日保育（ただし、通常保育及び延長保育を除く）
- ③ 病児・病後児保育
- ④ 夜間会議時のベビーシッター利用
- ⑤ 学童保育（延長保育のみ）

- ⑥ 習い事に係る送迎
- ⑦ その他上記に類する保育サービス

4. 利用者状況

今年度の利用者数は1名であった。

(5) 女性研究者へのノートパソコン貸出し

1. 制度の目的

山形大学では、平成23年度から山形大学男女共同参画基本計画（平成22年6月策定）に基づき、教育・研究と生活との両立のための環境整備の一環として本学の女性研究者に対して、ノートパソコンの貸し出しを行うことを目的とする。

2. 支援の対象者

国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、医員（年俸制の者に限る。）及び山形大学研究員等取扱規程に掲げる研究員のうち、博士研究員並びに大学院各研究科博士後期課程及び医学系研究科博士課程医学専攻に在学する学生で以下に該当する女性とする。

- ① 妊娠中、又は小学6年生までの子育て中の者
- ② 市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない）を介護している者
- ③ 勤務地の都合により、2世帯以上の生計を営んでいる者
- ④ その他、上記理由に準ずる者

3. 利用者状況

今年度の利用者数は8名であった。

(6) 研究中断からの復帰支援制度

1. 制度の目的

山形大学（以下「本学」という。）に勤務する研究者が、妊娠・出産・育児・介護のライフイベントにより、やむを得ず研究中断した場合において、中断からの復帰を円滑に進めるための研究費支援を行い、研究者の継続的な育成や多様な研究環境を実現することを目的とする。

2. 支援の対象者

支援の対象となるのは、本学に勤務する国立大学法人山形大学職員人事規程別表に掲げる職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、医員（年俸制の者に限る。）で、次に掲げるいずれかに該当し、ダイバーシティ推進室長が認めた者とする。

- ① 妊娠・出産・育児・介護のライフイベントのために通算3ヶ月以上研究活動を中断し、令和4年度中に当該研究活動中断から職務復帰した者
- ② 妊娠・出産・育児・介護のライフイベントのために通算3ヶ月以上研究活動を中断し、令和5年度の本制度募集期間に当該研究活動中断から職務復帰し、指定された日までに申請完了できる者

なお、研究活動中断期間については、当該復帰した日の前日から起算し、1年前まで遡ることができるものとする。(以下「研究中断対象期間」という。)

3. 支援額

10万円とする。

4. 利用者状況

今年度の利用者数は4名であった。

(7) 保育所利用状況(入所者数)

小白川キャンパス保育所のびのび

()は地域枠利用者数 令和6年3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和6年3月	9人(0人)	9人(1人)	18人(1人)

小白川キャンパス保育所つぼみ

()は地域枠利用者数 令和6年3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和6年3月	10人(1人)	0人(0人)	10人(1人)

医学部保育所すくすく

令和6年2月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和6年2月	15人	22人	37人

医学部病児保育室

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	計
令和5年度(4月～1月)	16人	61人	14人	47人	138人

荘内銀行キッズワールドあゆみ

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和6年3月	0人	0人	0人

③ 女性研究者の裾野拡大

(1) 女性研究者裾野拡大セミナー

農学部

「農学部を目指す女性の未来トーク ―ゲームと対話で描く将来像―」

- ◆日時：令和5年7月22日（土）
- ◆会場：農学部 1号館2階会議室
- ◆対象者：女子高校生および父母等
- ◆参加者：参加人数23人（男性3人・女性20人）
- ◆内容：

前半は参加者を4人のグループに分け、そのグループごとに講師が持参した「こころかるた」という質問カードを順番に引き、そのカードの問に答えるというゲームを楽しんだ。後半は、前半のカードの質問を参考にして、3人の女性研究者に「質問する」というゲームを行った。これにより、楽しみながら、農学や農学部および女性研究者のライフサイクルについて知る機会となった。

- ◆効果：

進学先として同じ学問や大学を目指す者同士の交流が生まれた。知らない学生同士が本セミナー終了後も話している姿がみられた。

- ◆反省点：

オープンキャンパスの他プログラムに参加した方の移動が困難であり、建物が変わる会場への誘導が不十分であった。このため参加者が想像以上に伸びなかった。また、本セミナーと同時間帯に行われる他のプログラムが多く、学生が分散しがちになる学生が分散しがちになることについても次年度は検討を要する。

工学部

「女性研究者裾野拡大セミナー in 山大工学部 2023」

- ◆日時：令和5年9月30日（土）
- ◆会場：米沢キャンパス 中示範A・オンライン
- ◆対象者：女子高校生他（男女年齢等問わず）
- ◆参加者：男性 1名、女性 22名（内1名保護者）
- ◆内容：

第Ⅰ部として、司会による男女共同参画の学内外の取り組みの紹介及び本セミナーの趣旨を説明後、5名の先生方に研究や教員になるまでの道のりなどの経験を発表頂いた。次に、女子学生2名が歯科材料研究について説明した後、AIに関する研究、米粉に関する研究、機械分野の研究、RNA研究など、先生方が取り組む研究を幅広く発表頂いた。最後に質疑応答の後、先生方からのコメントを経て第Ⅰ部を終了。その後、第Ⅱ部の研究室見学を経てセミナーを終えた。

◆効果：

本セミナーには2つの目的があった。1つは女子高校生を主軸に広く研究の裾野を拡大するための一助となること。2つ目は米沢キャンパスで研究する女性研究者の交流の機会を作り、今後の研究に発展させること。

目的1については、質疑応答で研究手法自体への質問もあり、高校生の意識や科学への関心の高さが感じられた。研究室見学では、在校生も含め参加申込時に希望していた研究室だけでなく、複数の研究室を見学し、直接学生や教員から大学の研究や将来について意見交換ができていた。これらのことや、セミナー終了後のアンケート結果から、参加者の今後の進路選択や勉学へのモチベーションを高められたと考える。目的2については、参加した女性研究者全員から、異分野の研究を知ることができて、とても楽しかった。今後、お互いの研究を協力しあえるようになれるといいという前向きなコメントがあり、セミナーは成功であったと判断する。

◆反省点：

本企画応募時から、開催までの間に本企画の運用方法が理解できていなかったために、企画者と事務職員との連携が遅くなったこと。次年度からは、企画が採択された時点で教員と事務職員との連携が取れるといい。

理学部

高校1年生向け 「理学部で何ができるのか？～女子高校生のための山大理学部案内～」

高校2年生向け 「理学部の研究室を覗いてみよう！」

◆日時：令和5年11月29日（水）

◆会場：理学部1号館12番・13番講義室 等

◆対象者：山形県立山形西高等学校 生徒

◆参加者：133人（男性0人、女性133人）

◆内容：

山形大学理学部での研究・教育について、将来女性研究者となる可能性のある女子高校生に理解してもらうことを目指す。具体的な目的は以下のとおりである。

- ・理学部の研究・教育内容を具体的に紹介し、より明確な理解を得る。
- ・在籍する女子学生、女性研究者の生の声を聞き、対話する機会を設けることで、将来の女性研究者増につなげる。
- ・研究室を見学する機会を設け、将来の選択肢の1つとしてもらう。

（高校1年生向け）「理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内」

5分野1領域から在学生在が参加し、研究分野・学生生活について紹介する。

（高校2年生向け）「理学部の研究室を覗いてみよう！」

5分野1領域から在学生在が参加し、研究分野・学生生活について紹介する。

その後、興味のある分野・領域に別れ、模擬講義（実験・講義等）を行う。

◆効果・反省点：

（高校1年生向け）

各分野・領域の在学生在が教育・研究・学生生活の紹介を行ったが、発表後の質疑応答だけでなく、プログラム終了後も個別に発表者へ質問する姿が見られた。

高校生が抱く「なぜ、理学部を選んだのか？」「理学部ではどのような教育・研究が行われているの？」といった一般的な疑問については、学生が経験談を交え回答している姿が見られた。

（高校2年生向け）

- ・数学分野：多項式の空間を考えよう
- ・物理学分野：宇宙の謎に迫る
- ・化学分野：化学反応を利用して『光る物質』を観察してみよう！
- ・生物学分野：動物の細胞を観察する
- ・地球科学分野：火山噴火の仕組みから地球を知ろう！：身近なものを使った噴火模擬実験
- ・データサイエンス領域：人工知能がどのように機能するのかをデモで理解する

という内容で、各研究室が工夫を凝らした実験・講義を行った。参加者は、興味を持った分野、領域の実験室等を訪問し、これらの実験・講義を体験した。

医学部

女性研究者裾野拡大セミナー山形大学飯田キャンパス2023

女子医学生の研究活動紹介

～実習や国試と「研究」って両立できる？「研究」を含めたキャンパスライフ～

- ◆日時：令和5年9月23日（土）
- ◆会場：山形大学飯田キャンパス第5講義堂
- ◆対象者：高校生・大学生
- ◆参加者：9人（男性1人・女性8人）
- ◆内容：

学生による研究内容紹介

学生による研究と学業を両立する工夫の紹介

OG研修医による学生時代の研究内容紹介

過去の女子学生の研究内容紹介

クッキータイム

- ◆効果・反省点：

多数回開催している高校生向け教育企画である「ひらめき☆ときめきサイエンス」と同じような形での開催を狙ったが、本セミナーは飯田キャンパスでの初めての開催であることもあり、企画・広報・当日の人員などひとつひとつにおいて、実施体制の構築に難渋した。

だが、当日は高校生・大学生の反応は想定を超えて非常に良好なものであり、実施した甲斐があるものであった。既に具体的な研究について検討を始めた女子学生もおり、開催した効果を感じている。

(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク(略称 山大JOIN)

次世代育成・裾野拡大事業として、女性研究者をめざす女性大学院生のネットワークを平成30年度に設立した。6年目となる今年度も新規メンバーの募集を随時行い、登録者数は15名となった。

交流会では、研究や学生生活の情報を共有したり、先輩から聞く会と題して、将来のことなどの相談会も開催した。

高校への出前講座は、女子中高生理系進路選択の支援活動でもあり、山形西高校(6月8日)と米沢興譲館高校(7月24日)で、高校生へのメッセージを話してもらった。参加した高校生のアンケート調査では、女性研究者(米沢興譲館高校出前講座:矢野裕子助教 山形大学大学院有機材料システム研究科)の話を聞き、「具体的な研究者への道を想像することができた」「大学院生との交流の中で刺激を受け、将来の進路選択に資する時間となった」との回答が寄せられた。

今年度新たに、山大JOINメンバーが主催し、学部生や大学院生を対象としたプレゼン講座を開催した。

以上の多様な取り組みを、HPにもイベント紹介や活動報告として掲載しPRしたほか、大学広報誌の特集記事として、学長との懇談会が掲載された。山大JOINメンバーには、全国ダイバーシティネットワーク組織などの情報も周知した。



米沢興譲館高校 山大JOINとの懇談会



女性研究者の講演



山大JOIN主催 プレゼン講座



学長との懇談会

(3) 令和5年度基盤教育・ジェンダー関連授業

「キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）」

授業時間 後期水曜日7・8校時（14:40～16:10）

1 目的

- (1) 多方面で活躍する方々の経験に基づいた講義をとおして、男女が共に仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を保つことができる働き方について考え、自らのキャリアビジョンを描く。
- (2) 日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」について深く理解し、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考える。

2 内容

本学の男女共同参画基本計画（第2次）に基づいた学内の様々な取組みを説明し、学内外から講師を招いて、自身のキャリア形成や経験に基づくワークライフバランスについて話をしてもらった。グループ学習として各講師の話を聞いて意見交換の時間を設けたり、また、アンコンシャス・バイアスについてワークショップを実施した。

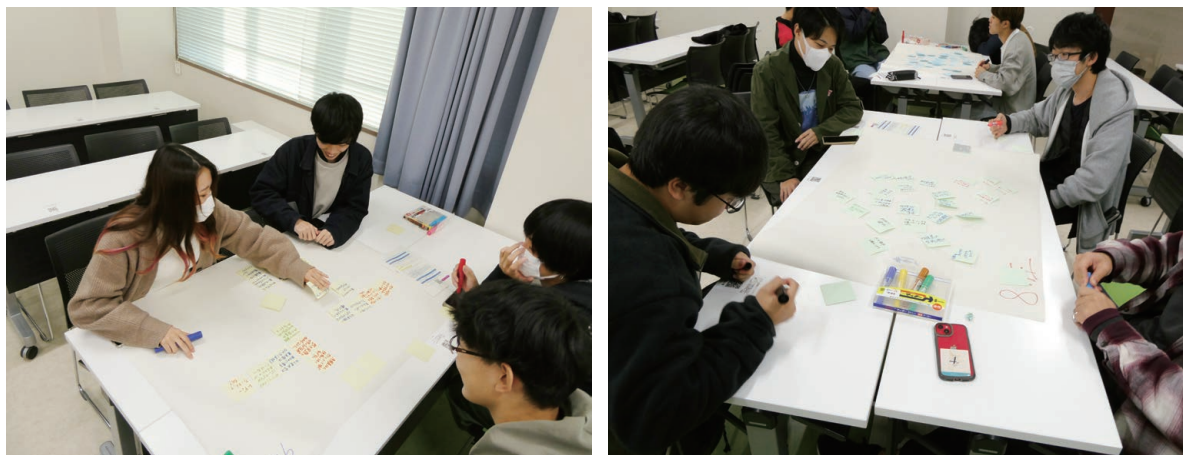
3 講師一覧（敬称略）

	月 日 (曜)	講 師 名	プロフィール等
1	10月11日(水) 14:40～ 16:10	高橋 真枝 山形市役所企画調整部 次長兼男女共同参画 センター所長	山形市役所1992年採用。教育委員会管理課長を経て2022年度より現職。これまで主に教育委員会のほか産業振興の業務を担当。
2	10月18日(水) 14:40～ 16:10	黒谷 玲子 学術研究院 准教授 (工学部)	専門は分子生物学、細胞生物学など。大学院修了後、博士研究員、他大学の助教、本学テニユアトラック助教を経て2014年本学准教授。
3	10月25日(水) 14:40～ 16:10	並河 英紀 学術研究院 教授 (理学部)	専門は化学。自己組織化と呼ばれる現象について生命・非生命の双方から研究している。神戸大学、北海道大学を経て、2011年に山形大学着任。途中、大学院生時代にドイツに4か月留学。
4	11月1日(水) 14:40～ 16:10	荒木 志伸 学術研究院 教授 (学士課程基盤教育院)	専門は日本考古学。お茶の水女子大学、國學院大學大学院修了、東北芸術工科大学、明治大学を経て、2011年に山形大学に赴任。山形に来てからは山寺立石寺や出羽三山、松島瑞巖寺などで調査をしている。
5	11月8日(水) 14:40～ 16:10	山口 弘太郎 アイジー工業株式会社 研究開発部 商品開発第2チーム	鉄骨造の建物向けの外壁の開発を担当している。宮城野高校、山形大学物質生命化学科、山形大学院を経て2021年にアイジー工業に入社（現在3年目）。

6	11月22日(水) 14:40～ 16:10	佐々木 由佳 学術研究院 准教授 (農学部)	専門は栽培土壌学。持続的な水稲栽培のための水田土壌の肥沃度維持に関する研究を行っている。山形大学農学部に学部から博士課程まで在籍し、独立行政法人農業環境技術研究所の研究員を経て、2004年から山形大学に勤務。
7	11月29日(水) 14:40～ 16:10	手塚 美春 学術研究院 助教 (医学部看護学科)	母性、助産学を専門とし、母子保健に関する研究や企業に向けた子育て支援のセミナーに取り組む。病院助産師、市の保健師を経て2020年から現職。
8	12月6日(水) 14:40～ 16:10	鈴木 貴子 学術研究院 准教授 (教育実践研究科)	専門は学校経営。県内小中学校の実態を把握し、学校経営と学校研究の一体化についての研究を行っている。(株)ベネッセコーポレーション、県内中学校教員、村山教育事務所指導主事を経て、2022年に山形大学に赴任。
9	12月13日(水) 14:40～ 16:10	中村 文子 学術研究院 准教授 (人文社会科学部)	専門は国際関係論。とくに人権、人身売買の問題を扱っている。東北大学大学院を経て、2017年後期から山形大学に赴任。

4 授業パンフレットの発行

平成29年度より、『キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）』授業のまとめ冊子を年度末に発行している。各講義の内容と学生の授業記録をまとめた内容で、学生、教職員、一般の方に配布し、男女共同参画社会やジェンダーについて考える契機になっている。



アンコンシャス・バイアスについてワークショップ

「ジェンダーで考える山形（山形から考える）」

授業時間 後期火曜日7・8校時（14:40～16:10）

1 目的

世界・日本の中の『山形』、過去・現在の『山形』をジェンダー視点で考え、未来の『山形』を描くとともに、その実現のために「学生目線のジェンダー講座」を提案する。

2 内容

- ・ガイダンス
- ・ジェンダーで考える世界と日本の現在
- ・日本のジェンダー：過去から現在まで
- ・「日本の現状と課題」についてグループ学習
- ・日本のジェンダー・男女共同参画政策
- ・男女共同参画基本計画（第1～5次）
- ・ジェンダーで考える日本の中の『山形』
- ・「『山形』の現状と課題」についてグループ学習
- ・『山形県内』でジェンダーを学べる施設等【見学：山形県男女共同参画センター チェリア】
- ・『山形県内』でジェンダーを学べる講座等【ゲスト講師：伊藤真知子 山形県男女共同参画センター館長】
- ・ジェンダーを学ぶ機会に関する県外の実態
- ・『山形』に必要なジェンダー講座をグループで討議
- ・「学生目線」でジェンダー講座を考える
- ・SDGsが描くジェンダー平等社会と未来の『山形』
- ・授業のまとめ（グループ発表）

3 まとめ

毎時間の振り返りや自己評価などからは、県内に男女共同参画について学ぶ施設があることを初めて知ったという驚きやグループ学習によってジェンダーについて自身の考えを深めることができたとの感想があった。その他にも様々な視点からの多くの感想や意見があり、お互いの考えや価値観を尊重しつつ、視野が広がる時間となったことがうかがえる。

4 研究力向上

(1) 令和5年度「山形大学男女共同参画及びダイバーシティ推進賞」表彰式

令和5年12月12日（火）に令和5年度「山形大学男女共同参画及びダイバーシティ推進賞」表彰式を開催した。

この賞は、男女共同参画及びダイバーシティの推進に貢献した山形大学の教職員及び教職員で構成する団体（教職員と学生を構成員とする団体を含む）を表彰することにより、その功績を称えて更なる活動を促し、また、大学全体の男女共同参画およびダイバーシティに対する意識の醸成を図ることを目的とし、今年度新設された表彰制度で、第1回目の受賞者は、複数の受賞候補者の中から、人文社会科学部主担当の池田弘乃教授に決定した。

学長室で行われた授与表彰式では、初めに、ダイバーシティ推進室長である大森副学長から授賞理由の説明があった後、受賞者には学長から表彰状と副賞が授与された。

表彰状等の授与後、池田教授からはお礼の言葉が、学長からはお祝いの言葉が述べられた。



表彰式の様子

5 アウトリーチ活動

機 関 等	連 携 内 容
大学コンソーシアム やまがた	① 大学コンソーシアムやまがた（ダイバーシティ推進室副室長） ・幹事会 開催日：令和5年6月15日（木） ・総会 開催日：令和5年6月28日（水） ② 大学コンソーシアムやまがたダイバーシティ推進ネットワーク会議 ・第1回 開催日：令和5年7月13日（木）（議長：副室長） ・臨時持ち回り 開催日：令和6年1月17日（水） ・第2回 開催日：令和6年3月18日（月）
山形県男女共同参画 センター チェリア	① 男女共同参画センター企画運営委員会（委員：副室長） 開催日：令和6年3月23日（土） ② 男女共同参画県民企画事業 審査委員会（副室長） 開催日：令和5年6月17日（土） ③ チェリア登録団体ネットワーク会議（副室長） 開催日：令和6年1月13日（土）、3月23日（土） ④ チェリアフェスティバル山形2023実行委員会（副室長） 第1回開催日：令和5年4月22日（土） 第2回開催日：令和5年5月27日（土） 第3回開催日：令和5年8月26日（土） 第4回開催日：令和5年11月11日（土） ⑤ チェリアフェスティバル2023 ・展示「多様な性についてと山形出身の女性研究者の紹介」 展示日：令和5年10月7日（土）から10月13日（金） ・ワークショップ「絵本で学ぼう 理科読」 科学の絵本の読み聞かせ・実験体験 開催日：令和5年10月8日（日） ⑥ チェリアフェスティバル山形2023 講演会 講演：坂無 淳氏（男の子にも女の子にも聞いてほしいジェンダーの話） 開催日：令和5年10月8日（日）
山形市企画調整部 男女共同参画センター	① 男女共同参画審議会（会長：副室長） ・第1回 令和5年6月6日（火） ・第2回 令和5年12月15日（金） ② 男女共同参画に関する一行詩 作品募集：基盤共通教育科目受講学生 ・作品審査会：令和5年9月1日（金） ・作品入賞 表彰式：令和5年10月28日（土） 最優秀賞1、入賞2 ③ 山形市男女共同参画センター 女性人材育成事業（助言者：副室長） 開催日：令和6年1月25日（木）
山形県産業労働部 雇用・産業人材育成課・ 働く女性サポート室	① 山形県若年女性県内就職・定着協議会（委員：副室長） 開催日：令和5年9月5日（火）

機 関 等	連 携 内 容
全国ダイバーシティネットワーク組織	①全国ダイバーシティネットワーク総括シンポジウム（推進室長） 開催日：令和5年11月28日（火）（オンライン） ②全国ダイバーシティネットワーク幹事会（推進室長、副室長） 開催日：令和5年7月24日（月）、12月20日（水）（オンライン）
全国ダイバーシティネットワーク組織 東北ブロック	①東北ブロック会議（室長、副室長） 開催日：令和5年12月4日（月）（オンライン）
裾野拡大 女子中高生理系進路選 択支援	①山形県立山形西高等学校 進路講演会（講師：副室長、山大JOIN） 開催日：令和5年6月8日（木） ②米沢興譲館高等学校出前講座（講師：矢野裕子 工学部助教、山大JOIN） 開催日：令和5年7月24日（月）
その他	①山形県教育センター新規採用教頭研修「ジェンダー平等」（講師：副室長） 開催日：令和5年5月12日（金） ②山形県教育センター高校5年経験者研修「ジェンダー平等」（講師：副室長） 開催日：令和5年6月30日（金） ③山形市男女共同参画センターWomen's Campus活動報告会（講評：副室長） 開催日：令和6年1月25日（木） ④東北活性県秋田フォーラム、学生とのWS（副室長） 開催日：令和5年7月26日（水） WS開催日：10月3日（火）、17日（火）、31日（火） ⑤山形県立酒田東高校SSH運営指導委員（副室長） 第1回開催日：令和5年6月28日（水） 第2回開催日：令和6年2月14日（水）

6 広報活動

ホームページ

より身近で活用しやすいホームページを目指し、令和5年4月1日にリニューアルした。「多様な性に関するガイドライン」や「子育て情報サイト」「産休・育休体験談」など多くのページを新設。随時内容を更新している。また、ダイバーシティ推進室の事業の一層の理解と支援制度等の利用促進のため、ダイバーシティ推進室が主催するセミナー・シンポジウム等の案内や、山形大学内外で行われているイベント（カラフルカフェ、チェリアフェスティバル等）の告知を随時行った。

ニューズレター

昨年度よりニューズレターを一新、すべての人が各自の個性を生かし、能力を発揮できる環境を創るための情報発信型に変更。今年度は山大JOINやLGBT、今年度新設された「山形大学男女共同参画及びダイバーシティ推進賞」の授賞表彰式の様子等、推進室の取り組みから専門的な分野の理解促進まで様々なテーマを取り上げた。



新聞報道

「山形大学男女共同参画およびダイバーシティセミナー～『男性の育休』をめぐるあれこれ～」開催について、次の記事が紹介された。

・令和5年5月1日（月）

「男性育休 課題は」 山形新聞

男性育休における様々な課題について神谷教授が解説する旨、掲載された。

男女共同参画の推進に関連して、県内で活躍する女性研究者をホームページで取り上げるなど、理工系分野での女性活躍の推進や人材育成に貢献したことに對し、本学の栗山恭直教授が山形県男女共同参画社会づくり功勞者等知事表彰を受賞した。

・令和5年11月16日（木）山形新聞

理科教育普及に尽力 栗山教授をたたえる

全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイト

平成30年11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置され、令和元年にウェブサイトOPENeDが開設された。本学の取組が参考事例として掲載されており、令和元年度より、山形大学の女性研究者採用情報をリンクしている。

令和5年度は、東北ブロック活動の中で南東北会議研修会について掲載された。また、参考事例として掲載していたページを更新。「ダイバーシティを加速するための研究者支援の取り組み」と題し、大学のダイバーシティ推進における現状や、ダイバーシティ推進室の取り組みの一つである各種支援制度等の取り組みの紹介を行った。

裾野拡大のための広報

県内の高校に対し、各種イベント開催の告知・広報を行った。

理系の女性の活躍推進について、工学系学部への進学率の高さと共に高校での出前講座に関する記事が掲載された。

・令和5年6月24日（土）日本経済新聞

女性の「工学」進学 山形首位